

## 経営のヒント217 「社訓」の唱和をやめた時、会社はもっと強くなる

「社訓を唱えると、社員は社訓中毒になる」

法然は念仏を唱えるだけで極楽浄土に行けると唱えました。

しかし、企業活動は社訓を唱えることが、企業価値を高めることに対する、クリティカルな手段とは断じてなりえません。

人は唱えたり

叫んでみたり

ある行為を行うだけで、

思考停止の状態になり、ひいては「達成感」「安心」を感じてしまう

そんな脆弱な性質も押さえておく必要があります。

社訓を唱える事が、単なる習慣となっている会社は、いったん社訓を唱える事をやめてみるのはいかがでしょうか？

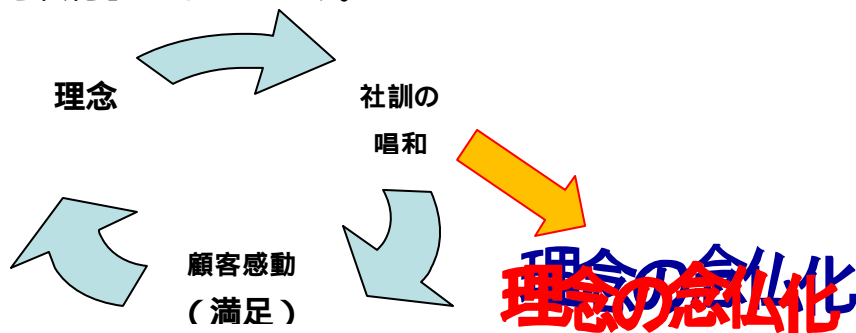
その代わりに、理念に基づいた行動が取れるマニュアルをつくるのです。

プロジェクトにして、現場を巻き込みながらつくる！

これこそがプロジェクト型組織の醍醐味であり、一番有効なことです。

ディズニーランドのキャストが「ハピネスを提供する」ことができるのは、オペレーション（行動）の一つに理念が宿るようマニュアルと教育、評価が一气通貫で設計されているからです。

唱和をやめてみたうえで、また唱和を復活させるもよし、廃止するもよし、何より大事なことは「社訓」を「念仏化」させないことです。



参考著者「NEW プロジェクトの作り方」伊場正康

### <経営のヒント>

「理念を唱えること」が理念に沿った行動に繋がるとは言えません。

理念が浸透している会社（組織）は、どこが違うのでしょうか？

社員やスタッフたちの取っている行動を理念にそって評価する仕組みがあることが大事ですね。

コーピングといって、具体的な行動に、意味付けする。価値を与える。意義づけすることです。

社員さんたちに、理念に添った具体的な行動を常に意識してもらう事が重要です。

そして評価し、バリューアップしてあげる事ですね。

あなたはごどう思いますか？

あなたの会社（組織）では、どのような創意工夫をされているのでしょうか？